

令和8年3月17日

「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告書

春日井市立勝川小学校  
校長 村上 洋

事業テーマ	学びに向き合い、学び合い、考え抜く児童の育成	
取組の目的	生涯にわたって学び続ける児童の育成をめざし、社会で活躍する大人との関わりを通して一人一人の児童が自分の役割に価値を見出したり将来に希望をもったりすること、日常の授業において「学習内容」と「学び方」を習得し将来の学びにつなげることを目的とする。	
区 分 (○印を付ける)	新規事業→継続事業（総事業年数1年間、3年目）	
継続事業の場合、 昨年度の課題を踏 まえて対応した内 容		
事業名	事業内容	実施時期
トップアスリート交流	・ オリンピックメダリストとの交流会	3学期
現職教育推進	・ 先進校研修参観による現職教育の充実	通年
	・ 現職教育を踏まえた公開校内授業研究会	年3回 (各学期1回)
取組の成果		
<p>【トップアスリート交流】</p> <p>オリンピックソフトボール金メダリストを講師として招き、プレーを見せてもらったり、体の動かし方を教えてもらったりすることで、運動することの楽しさを味わうことができた。また、チャレンジすることの大切さを教えてもらい、夢に向かって努力しようという子どもたちの姿が見られた。</p> <p>【現職教育の推進】</p> <p>市外・県外の学校の授業を参観し、校内で共有することができた。授業づくりに関わる新たな視点を得たり、現職教育の進め方を改善したりすることができた。</p> <p>全3回の校内研では、これまで取り組んできた探究の学習のサイクルを意識した授業過程や、身に付けさせたい情報活用能力の明確化に加え、児童が見方・考え方を働かせることができるような授業づくりをめざして取組を進めた。日常的に学年内や学</p>		

年を越えて情報共有をしながら進めることができた。特に、外部講師の講話において、成果や課題となる部分の理解が深まり、教職員の授業実践の変化につながった。

#### 課題

##### 【トップアスリート交流】

トップアスリートとすると分野が限られ、講師の選択肢が狭まってしまった。幅広い分野から講師を選ぶことができるようにするために、プロフェッショナル交流などとネーミングを変え、継続的に取り組むことができる内容にしていく必要がある。

##### 【現職教育の推進】

担任が市外・県外の学校の授業を参観するためには、自分の学級を誰かにフォローしてもらい必要がある、本当は参観したいけれど、遠慮して行けない実態があった。校内でフォローできる環境を整え、校外に学びに行きやすい環境づくりが必要である。